



向かって左より、青山節児中津川市長、高野之夫豊島区長、野田聖子前・内閣府特命担当大臣、柴橋正直岐阜市長。撮影：広瀬達郎（本誌、108〜113頁のポートレートも）

〔芸術新潮特別企画〕

# 熊谷守一が結んだ親戚づきあい 文化でつなぐ都市間連携

座談会

**野田聖子** × **高野之夫** × **柴橋正直** × **青山節児**

前・内閣府特命担当大臣

豊島区長

岐阜市長

中津川市長



右／熊谷守一(1880～1977)は17歳で上京後、東京美術学校(現・東京藝術大学)に進学。赤い輪郭線と簡明な色彩が特徴的なモリカズ様式で知られる。提供：豊島区立熊谷守一美術館  
左／晩年、自宅の庭でひたすら動植物を観察していた熊谷は、花や虫をモチーフとした作品を多く残した。●熊谷守一《豆に蟻》1958年 油彩、板 24.3×33.4cm



生誕の地・岐阜県中津川市、多感な青少年期を過ごした岐阜市、終の棲家となった東京都豊島区。熊谷守一ゆかりの地の、親戚づきあいが活発化している。

進行

**市川博一**

(柳ヶ瀬画廊社長、岐阜市中心市街地回遊性協議会会長)

**市川瑛子**

(柳ヶ瀬画廊長良文庫学芸員)

**市川博一**(以下、市川) 熊谷守一という共通項が結ぶ都市間連携についてお話を

伺いました。みなさまにお集まりいただきました。熊谷先生の生まれ故郷である岐阜県中津川市の青山節児市長、青少年期を過ごした岐阜市の柴橋正直市長、終の棲家を構えた東京都豊島区の高野之夫区長。そして、文化をキーワードに都心と地方の新しい関係構築といった、今回の座談会のテーマに通じる地方創生にご尽力されている、野田聖子大臣です。じつは「財政と専売」で、お祖父さまの野田卯一氏と熊谷先生が対談をされているというご縁もあります。

**野田聖子**(以下、野田) よくまあ、こんな古い記事を見つけてくれました(笑)。以前から作品は存じ上げておりますし、映画『モリのいる場所』(2018年)を拝見して、「こんなに風変わりな方だったのか」と思ったりもしましたが、まさか祖父が守一先生と面識があったとは……。今日はそんな守一先生を介して、みなさまとお話できることを楽しみにまいました。

**市川瑛子**(以下、市川瑛) では早速、各自治体のまちづくりについて、区長、市長のみなさまに文化事業との接点も交えて伺いしたく存じます。

**高野之夫**(以下、高野) 私は豊島区長を務



**野田聖子**

Seiko Noda

1960年、福岡県北九州市生れ。前・内閣府特命担当大臣(地方創生、少子化対策、男女共同参画)、女性活躍担当、こども政策担当、孤独・孤立対策担当。1987年、岐阜県議会議員選挙で全国最年少の26歳で当選。1993年、衆議院総選挙に岐阜県第1区から出馬して初当選、国政へ。これまでに郵政大臣、総務大臣、衆議院予算委員長などを歴任している。

▲「財政と専売」1950年第18号(日本専売公社発行、たばこと塩の博物館蔵)で煙草談義をする野田卯一氏と熊谷守一。野田卯一氏は野田聖子前大臣の祖父で、当時、日本専売公社副総裁を務めていた。そしてこの年の6月、参議院議員に当選。第3次吉田内閣では建設大臣を務めた。撮影：広瀬達郎(本誌)



めて24年目を迎えますが、就任した1999年、豊島区は財政破綻寸前でした。借金が872億円、貯金が36億円。この再建に12年を要します。緊縮ばかりでは閉塞感がありますから、区民に夢をもつていただけるよう、文化を軸にしたまちづくりを目標に掲げました。豊島区には1920年代から40年代にかけて、「池袋モナルナス」と呼ばれる芸術家たちが集うアトリエ村がありましたし、昭和を代表するマンガ家たちが暮らした「トキワ荘」もあり、文化的土壌があります。

そうしてようやく財政が安定してきたものの、2014年、消滅可能性都市だと指摘されてしまいました。そこで文化による都市再生政策「国際アート・カルチャー都市構想」を本格化させ、誰もが主役となるまちの実現に向けて、人口減少を始めとする様々な社会課題解決に邁進。池袋は、いまでは若い人たちが住みたい魅力のあるまちに変貌しました。この取り組みが評価され、2020年、東京で初めて内閣府から「SDGs未来都市」、「自治体SDGsモデル事業」にダブル選定されています。

**柴橋正直**(以下、柴橋) 岐阜市では「センターゾーンの未来風景」を掲げたまちづくりを進めています。岐阜駅周辺、



古くから商店街として発展してきた柳ヶ瀬エリア、「市役所」や伊東豊雄さん設計の「みんなの森ぎふメディアコスモス」があるつかさのまちエリア、織田信長の居城・岐阜城をはじめ歴史的情緒を残す岐阜公園周辺。この4つのエリアを中心に様々な事業が動いています。そのひとつ、岐阜市のセントラルパーク「金公園」〔左頁下右〕は、まちとまちをつなぎ、多くの市民が憩い、うるおう空間となるよう再整備が進行中。豊島区の南池袋公園のような魅力ある公園にしたいと考えています。

アートと岐阜の伝統をつなぐものとしては、今年、長良川の鶯飼の高級観覧船を3艘新造しました。岐阜和傘では、若い女性職人がオシャレで現代的な和傘を制作し、業界を活気づけようと頑張ってくれています。何も対策しなければ舟大工も和傘職人もいなくなってしまうところを、若い人たちが立ち上がってくれているのです。

青山節児〔以下、青山〕中津川市はいま、「ストレスマネジメントのできるまち」を打ち出しています。この魅力を教えてくれたのは海外からの観光客でした。彼らは馬籠宿のような有名観光地を訪ねるだけでなく、森林や溪谷を散策して楽しんでいます。伊勢神宮の式年遷宮に使われる木曾ヒノキでも知られる

## 熊谷守一ゆかりの地 共通項が広げる可能性

市川〔夔〕では、熊谷守一という共通項は、都市間連携、地方創生の可能性を広げる一助となり得るでしょうか？

ここで簡単に熊谷先生のご紹介をさせていただきます。1880年に岐阜県中津川市で生まれ、1883年から97年にかけて岐阜市で過ごし、上京。1932年に豊島区に自宅を新築すると、1977年に97歳で亡くなるまでを過ごしました。いま見ても新鮮な画風で、2017年に開催された大回顧展「没後40年 熊谷守一 生きるよこび」〔東京国立近代美術館ほかが評価を決定的にしたと言われています。その独特な生き方のファンも多く、舞台『無欲の人 熊谷守一物語』や、映画『モリのいる場所』で取り上げられました。柴橋 守一画伯が結んだ連携はすでに始まっていて、昨年12月に岐阜市で開催した「く岐阜、豊島、ゆかりの地をつなぐ」熊谷守一展〔下左〕はそのひとつです。岐阜市所蔵の《父の像》〔上左〕や《朝日》〔上右〕、「岐阜」と書かれた書も出品。高野区長、青山市長にもお越しいただきましたね。絵画作品が素晴らしいのはもちろんですが、工具や日用品などの遺品が非常に印象に残

## 豊島区



### 高野之夫

Yukio Takano

1937年、東京都豊島区生れ。豊島区長。豊島区議会議員（1983～89年）、東京都議会議員（1989～99年）を経て、1999年より現職。

▲熊谷守一の油彩画としては絶筆となる《アゲ羽蝶》。●1976年 油彩板 33.4×24.3cm 豊島区立熊谷守一美術館蔵



### 豊島区立熊谷守一美術館

熊谷の次女・樫さんによって、1985年に熊谷邸跡に開館。2007年に豊島区立となった。作品のほか、熊谷の遺品も展示されている。

東京都豊島区千早2-27-6  
☎03-3957-3779  
<http://kumagai-morikazu.jp/>



▲「国際アート・カルチャー都市構想」を掲げる豊島区は、その一環として公園を核としたまちづくりを推進。2016年にリニューアルした「南池袋公園」は都会のオアシスとして区民の憩いの場になっている。



▲「池袋リビンググループ」は、リビングのように居心地のよいまちなかを目指すプロジェクト。屋外でマルシェが開かれたり、イベントが行われたり、行政・民間企業、区民が一体となって盛り上げている。

## 岐阜市



### 柴橋正直

Masanao Shibahashi

1979年、京都府京都市生れ。岐阜市長。UFJ銀行勤務、衆議院議員（2009～12年）を経て、2018年より現職。



◀岐阜市のセントラルパーク「金公園」の完成予想図。現在、再整備が進められており、2022年度内の完成予定である。

▶右／岐阜市庁舎の応接室を飾っている熊谷守一の《朝日》。●1958年 油彩、カンヴァス 37.8×28.0cm 岐阜市蔵  
左／初代岐阜市長を務めた父・孫六郎を描いた熊谷による《父の像》。●1910～15年 油彩、カンヴァス 45.0×37.5cm 岐阜市蔵



▲豊島区との連携で実現した「く岐阜、豊島、ゆかりの地をつなぐ」熊谷守一展、(2021年12月4日～19日、みんなの森 ぎふメディアコスモス)の会場風景。高野区長の姿も。

ように、中津川市は緑と川に恵まれた地。市民にとっては身近すぎて気づかない豊かな自然が、じつは大きな魅力だったのです。守一画伯も一時期、中津川市で林業に従事しており、その経験は作品になんらかの影響を与えたのではないのでしょうか？ こうした環境が広く知られるようになり、「住みたい田舎ベストランキング」〔田舎暮らしの本〕2022年2月号の「若者世代・単身者が住みたいまち」部門で、東海地方第1位になりました。シニア世代部門、子育て世代部門では第2位。実際、移住者も多いです。

野田 テレワークが浸透して、地方で暮らすことが不利ではない時代になってきていますから。私はいま、地方創生、少子化対策、男女共同参画、女性活躍、こども政策、孤独・孤立対策を担当しています。共通しているのは、これまでマイノリティとされてきたという点。それをマジョリティにするという、天動説が地動説にひっくり返るくらいの発想をもつて臨まないといけない業務に挑んでいます。コロナ禍で不要不急が問われた文化芸術は、いわばマイノリティと受け止められがちですが、確実に地方創生の立役者になっており、日本を救う時代がやってきていると私は感じています。

っています。これらは豊島区からお借りして展示したもので、この工具を使って柵や椅子を作っておられたのか、と感慨深いものがありました。岐阜市民も画伯のお人柄や価値観に触れることができたのではないかと思います。

高野 豊島区には、1985年に守一画伯の次女・樫さんが私費を投じて開館され、2007年に区が譲り受けた「豊島区立熊谷守一美術館」〔右頁下右〕があります。残念ながら樫さんは今年2月にご逝去されましたが、私たちがその遺志を継いでしっかりと守っています。生まれ故郷、青少年期を過ごした地、終の棲家という画伯の生涯を俯瞰できる展覧会を連携して企画しませんか？

青山 それはいいですね。生家があった中津川市付知町には「熊谷樫つけちギャラリー」〔旧・熊谷守一記念館〕、「熊谷守一つけち記念館」〔112頁下右〕、2つのゆかりのスポットがあります。画伯は地元でも愛される画家だったのです。6年ほど前になりますが、当時104歳だった市内最高齢の男性を訪ねたところ、守一画伯との思い出をとても嬉しそうに語ってくださいました。「付知のあれが欲しい、これが欲しい」と画伯から連絡があるたびに、それらを買うをろえて豊島区のお宅まで届け



に行っていたそうです。まだ自動車道もなく、移動には長い時間を要した時代です。お礼に画伯が作品をくださったこともあるとか。

**野田** これまでは、東京に集中している大企業を地方に分散させることで地方創生を目指してきましたが、それだけでは限界があることが分かってきました。みなさまがいち早く気づいて政策に取り入れたように、じつは文化芸術には人を呼び集めるポテンシャルがあります。企業ではなく、アーティストを誘致する地方も出てきている。熊谷守一というオンリーワンの共通項でつながり、先行的に地域の活性化に取り組んでいただいていることをすごく嬉しく思います。

### 文化が照らす未来を見据えて

**市川(瑛)** 最後に今後の展望についてお伺いします。岐阜県では、令和6年に『清流の国ぎふ』文化祭2024(第39回国民文化祭と第24回全国障害者芸術・文化祭の統一名称)が予定されています。野田大臣、開催に向けての期待などをお聞かせください。

**野田** コロナウイルスの蔓延によって、私たちが描いていた未来は、むりやり閉塞感漂うものの上に書きされてしまいました。けれど私たちには知恵が



▲上/「池袋アートギャザリング公募展 IAG AWARDS 2022」の会場風景。池袋駅周辺地域のまちなかを主会場としたアートフェスティバル「池袋モンパルナス回遊美術館」のメインイベントのひとつである公募展だ。

下/今年5月に開催された「岐阜アートギャザリング2022」では、「池袋アートギャザリング公募展 IAG AWARDS」の選抜アーティストの作品が岐阜市内の十六銀行、岐阜信用金庫、柳ヶ瀬画廊で展示され、文化交流はもちろん、まち歩きが楽しめる企画となった。

とは言えないかもしれませんが、郷土が輩出した芸術家の作品を守って、こういう強い意志は、岐阜市の大きな力になっています。『清流の国ぎふ』文化祭2024は、そんな岐阜市のみなさん、県内の文化や伝統芸能、高校生の文化活動をクローズアップする機会にもなります。いずれ岐阜から外へ羽ばたいてゆく若者もいるでしょう。けれど守一画伯が最期まで郷土愛を忘れたかったように、常に故郷とつながっていてほしい。そのためにも、岐阜出身の作家も参加する「文化祭」は、オール岐阜で取り組めたらと思います。都市間連携においては今年も引き続き

き行われ、5月に開催した「岐阜アートギャザリング」[右上]は、「池袋アートギャザリング公募展 IAG AWARDS」[右上]の選抜作品を岐阜市で紹介したものです。今後は、岐阜にこだわり、岐阜にゆかりのあるアーティストが頑張っているものを応援していきたいと思っています。

**市川(瑛)** いっぱう今春、豊島区立中央図書館で特別展示「熊谷守一の世界」が行われました。これは前年の岐阜市立中央図書館での展示を豊島区でも行ったもので、会場には岐阜紹介コーナーも設けられ、連携の連鎖が始まっていると感じます。

## 中津川市



### 青山節児

Setsuji Aoyama

1951年、岐阜県中津川市生れ。中津川市長。東美濃農業協同組合の常務理事、代表理事専務などを歴任したのち、2012年より現職。

▼中津川市の雨乞棚山(あまごいたなやま)を描く。熊谷は30〜35歳の頃付知に戻って林業に従事していた。  
●《雨乞だな》1961年 油彩、板 24.2×33.4cm  
中津川市蔵(熊谷守一つけち記念館寄託)



### 熊谷守一つけち記念館

約120点の油彩画をはじめ、日本画、書、遺品など約500点を所蔵。熊谷が愛用した作業着カルサンとはどんなものだったのか、現在開催中の企画展示「カルサンと小鳥」が教えてくれる。

岐阜県中津川市付知町7713

☎0573-83-0050

<http://www.morikazu-museum-tsukechi.jp/>



▲「ストレスマネジメントのできるまち」を象徴するような景観の付知駅。



▲中山道の宿場町だった馬籠宿は、世界的にも人気の観光スポット。



ある。いままではモノに固執してきたけれど、これからは文化芸術に光を当てることで、ポストコロナの日本が生まれることを期待しています。『清流の国ぎふ』文化祭2024は、その見せ場となるでしょうから、ぜひ豊島区も一緒に盛上げていただけたらいいですね。

**市川(瑛)** 中津川市はリニア中央新幹線の駅の設置が予定されていますね？

**青山** 中津川市は東山道が通ったことで集落が形成され、江戸時代に中山道が整備されると商業を中心に栄えました。さらに鉄道開通で広範囲の都市との行き来が生まれた。道路、鉄路によって発展してきたまちですから、リニア中央新幹線の開通もまたひとつの転機となり、人流の結節点としての役割を果たすことができると期待しています。岐阜市、豊島区とも連携関係を強め、新しい文化発信の方法を考えていきたいと思っています。

**市川(瑛)** まちづくりを進めるうえで文化芸術の活かし方、他自治体との連携について、岐阜市の展望はいかがでしょうか？

**柴橋** 現在、ぎふしん記念財団からのご寄附によって、岐阜市出身の加藤栄三、東一画伯の下絵、素描の修復作業が進められています。派手な文化活動

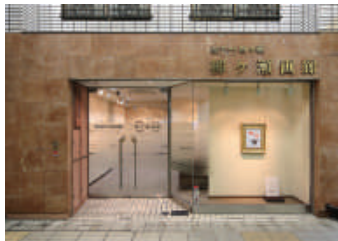
### 柳ヶ瀬画廊

大正8年(1919)創業の老舗画廊。熊谷守一の油彩画約250点を取り扱うなど、特に国内外の大家・巨匠の洋画に強い。

岐阜県岐阜市柳ヶ瀬通3-21

☎058-262-3481

<https://yanagase-web.com/>



◀座談会の進行を担った市川博一社長(左)と市川瑛子氏。創業100年を超える「柳ヶ瀬画廊」の経営のかたわら、市川社長は岐阜市中心市街地回遊性協議会、岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会、合同会社柳ヶ瀬まちづくり会社等の会長を務める。



▲東京〜名古屋間に開通するリニア中央新幹線は、中津川市にも停車駅ができる予定。

